

技術とデジタルの融合を目指して

近年の CAD/CAM テクノロジーに関わる機械化は、コンパクトで高精度の機種が各メーカーから発売され、ラボの規模に合った機種を選択できる事から個人ラボで CAD/CAM の導入が増えていくのではないのでしょうか。

技工作業がアナログからデジタル化になる事により、作業環境の改善また、機械化により高品質な補綴装置が安定的に提供することが出来るようになった。

しかし、一見 CAD/CAM による製作は生産性が向上するように思われるが、実際の時間を考えると、オペレーターを介した場合の作業は意図する物と違う事が多く、以外に時間の短縮化に繋がっていないように感じている。

オペレーターを介した作業を円滑にするためには、意識と知識を共有する事が不可欠と考え、煩雑な技工作業の中で意識と知識を共有するために、ミーティングを行う事で問題点の明確化から改善へと繋げている。

またデジタル化が進む中で、歯科医師から歯科技工士にオーラルスキャンを用いたデジタルデータで情報伝達も進み双方がデジタル化された情報を共有することでより深いコミュニケーションが得られると考えている。

そこで、今回は CAD/CAM の特性を考え作業を分担化し効率化するための考えとオペレーターとの連携から作業効率化。単冠の色調再現に対しての製作する上での考え方や歯科医師とデジタルデータを元にコミュニケーションを取りながら進めた多数歯補綴のケース。またラボとしての取り組みなどを交えお話したいと思います。